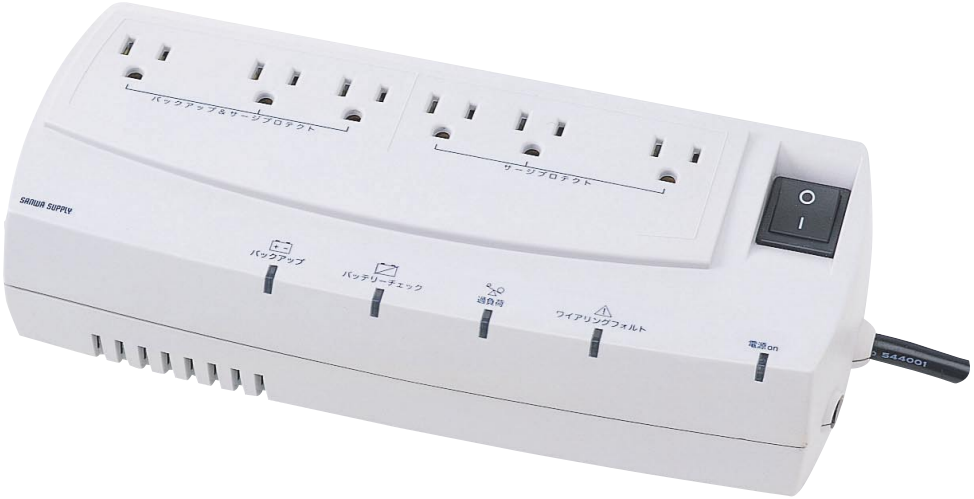
小型無停電電源装置 取扱説明書

UPS-250TS



ご使用前にこのマニュアルをよくお読み下さい。また、お手元に置き、いつでも確認できる様にしておいて下さい。

デザイン及び仕様については改良のため予告なしに変更することがございます。
本誌に記載の社名及び製品名は一般的に各社の商標又は登録商標です。

TS500149-001

サンワサプライ株式会社

はじめに

このたびは、弊社無停電電源装置(UPS)をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
UPSは接続したパソコンを電源トラブルから守ります。

※本製品をご使用になる前に必ずこのマニュアルをよくお読みください。
本書では、UPSの性能を最大限生かして有効寿命の間ご使用いただけるよう、安全性、設置方法、および操作手順について説明しています。

※このマニュアルを保管してください。
本書では、安全に使用する方法が記載されています。またUPSに問題が生じた場合、お買い求めの販売店に連絡する前に、このマニュアルを参照してください。

※梱包材の保管
UPSの梱包材は、輸送中に生じる衝撃から装置を保護するように設計されています。サービスのためにこのUPSを返送する際には、この梱包材が必要になります。輸送中に発生した破損は保証の対象になりません。

2001年 12月 第1版

このたびは、無停電電源装置(UPS)をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

1.この取扱説明書は大切に保管してください。
2.この取扱説明書の内容は、予告なしに変更することがあります。
3.この取扱説明書に書かれた注意を守らずに使用された結果については、当社は責任を負いかねますのでご了承ください。
4.この取扱説明書の内容の一部または全部を無断で複写・転写しないでください。
5.この取扱説明書の内容は万全を期して作成しておりますが、お気付きの点、ご不明の点がございましたら、お手数でもお買い上げの販売店または最寄りの営業所までご連絡ください。

Copyright © 2001

サンワサプライ株式会社

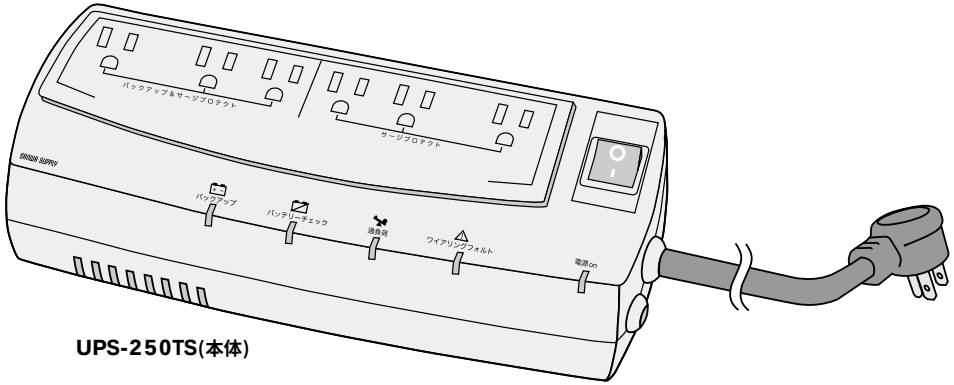
セット内容の確認

まず、梱包箱を開けて、セット内容を確認してください。
不足しているものがありましたらお買い上げの販売店までご連絡ください。

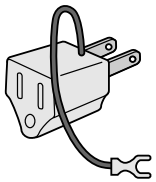
最初にご確認ください。

セット内容

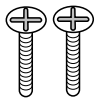
- ●小型無停電電源装置本体 …… 1台
- ●3P→2P変換アダプタ …… 1個
- ●止め金具（木ネジ） …… 2個
- ●テンプレート用紙 …… 1枚
- ●取扱説明書兼保証書(本書) …… 1部



UPS-250TS(本体)



3P→2P変換アダプタ



固定用止め金具（木ネジ）×2個

テンプレート用紙

※本仕様は、改良のため、予告なく変更することがあります。

安全上のご注意

1.安全にお使いいただくために

①ご使用の前に、必ずこの取扱説明書を熟読し、正しくお使いください。
②この取扱説明書では、安全注意事項のランクを「危険」、「注意」として区別してあります。

⚠ 危険	取り扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて死亡または重傷を受ける可能性が想定される場合。
⚠ 注意	取り扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて中程度の障害や軽傷をを受ける可能性が想定される場合、および物的損害のみの発生が想定される場合。

なお、注意に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。
いずれも重要な内容を記載しておりますので必ず守ってください。

禁止・強制のマークの説明を次に示します。

禁止	禁止(してはいけないこと)を示します。
強制	強制(必ずしなければならないことを)示します。 例えば、接地の場合は ⏚ となります。

③警告表示がかすれていたり、警告ラベルが破損した場合は、お買い上げの販売店に連絡していただき、常に明瞭な状態を維持するようにしてください。

2.取扱説明書内の警告文について

①危険回避の警告

設置上の注意事項

⚠ 注意

- ●UPSは前後左右に2.5cm以上の空間を設けて設置してください。
- ●UPSの通風口はふさがないでください。
- ●UPSの上面には物を載せないでください。
- ●次のような環境での使用・保管は絶対にしないでください。
  故障・損傷・劣化などによって、火災の原因になることがあります。
  ①カタログ・取扱説明書に記載の周囲温度から外れた高温・低温・多湿となる場所
  ②直射日光が当たる場所
  ③ストーブ等の熱源から熱を直接受ける場所
  ④車載・船舶等、振動や衝撃の加わる場所
  ⑤火花が発生する機器の近く
  ⑥粉塵・腐食性ガス・塩分・可燃性ガスがある場所
  ⑦屋外 (参照ページ:8)

配線上の注意事項

⚠ 注意

アース線を確実に接続してください。
アース線を接続していない場合、感電のおそれがあります。 (参照ページ:10)

配線上の注意事項

⚠ 注意

延長用の電源や蛸足配線となるアダプタは使用しないでください。
(参照ページ:10)

使用上の注意事項

⚠ 注意

UPSのカバーは開けないでください。
感電のおそれがあります。 (参照ページ:18・19)

⚠ 注意

UPSが故障し、異臭・異音がした場合はUPSをすぐに停止してください。
火災の原因になる場合があります。 (参照ページ:10・12・20)

通風口に棒・指などの異物を入れないでください。 (参照ページ:12・20)
感電のおそれがあります。

入力プラグは絶対に出力コンセントに差し込まないでください。
運転中に入力プラグを出力コンセントに差し込むと電流が環流し、アークが発生してやけど・視覚の障害などのおそれがあります。 (参照ページ:12・20)

UPSが運転している状態で入力電源ケーブルを抜かないでください。
感電・やけどのおそれがあります。 (参照ページ:12・20)

運転中はUPSを絶対に移動させないでください。 (参照ページ:12・20)
感電・やけどのおそれがあります。

負荷を減らす場合、UPSを停止させてください。 (参照ページ:12・20)
火災・やけどの原因になる場合があります。

⚠ 注意

UPSが運転中(商用/バックアップインジケーター点灯)に、入力電源ケーブルを抜かないでください。停電と同じ状態になり、バッテリが放電します。 (参照ページ:14・15)

⊘ 禁止

UPS周辺での喫煙・火気の使用を禁止します。 (参照ページ:12)
爆発・破損により、けが・火災のおそれがあります。

UPSの上部に花瓶など水の入った容器を置かないでください。
花瓶などが転倒した場合、こぼれた水での感電・UPS内部からの火災の原因になることがあります。

UPSの上部に乗ったり、踏み台にしたりしないでください。

次のような用途には絶対に使用しないでください。
a.人命に直接かかわる医療機器などへの使用。
b.人身の損傷に至る可能性のある航空機・電車・エレベータなどへの使用。
c.社会的・公共的に重要なコンピュータシステムなどへの使用。
d.これらに準ずる装置。

保守・点検上の注意事項

⚠ 注意

本UPSには寿命があります。寿命が来たら新しいUPSを購入してください。
寿命となったUPSは火災の原因になることがあります。 (参照ページ:19・20)

⊘ 禁止

当社が指定した保守員以外の人は、保守・修理をしないでください。 (参照ページ:20)
感電・けが・火災のおそれがあります。

②装置の性能に関する注意事項

使用上の注意事項

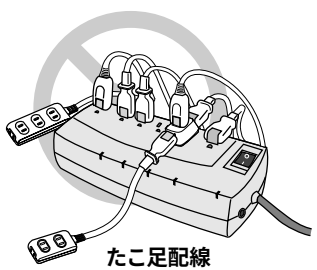
⚠ 注意

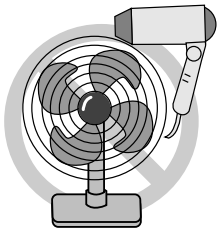
バッテリは使用しなくても自然放電します。3ヶ月ごとに24時間のバッテリ充電運転を行ってください。
バッテリが使用できなくなることがあります。 (参照ページ:14)

⚠ 注意

負荷接続する機器の消費電力の合計が250VA(150W)以下にしてください。
本装置はコンピュータの周辺機器用に設計しています。
トランスやインダクタなどの巻線類負荷には適合しません。
レーザープリンタを接続しないでください。 (参照ページ:11)

⊘ 禁止


たこ足配線


巻線類負荷

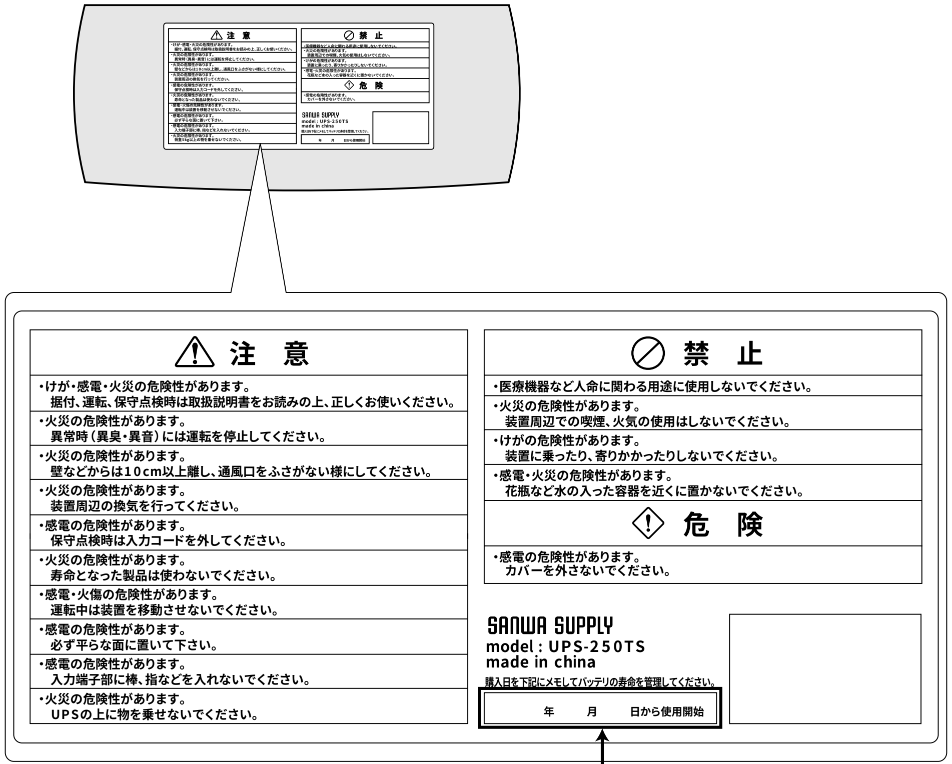
レーザープリンタ

照明器具

3、警告ラベル」の表示の位置

本UPSには次のような「警告ラベル」が付いています。
ラベルの内容を確認し、必ず守るようにしてください。
また、「警告ラベル」がかすれたり、はがれたりした場合は
お買い上げの販売店に連絡してください。

底面図



最初に使用開始日を記入してください。

目次　CONTENTS

1.設置場所 …… P.8
2.安全上の重要な注意事項 …… P.8
3.各部の名称 …… P.9
4.使い方 …… P.10〜13
5.長期間使用しないときは …… P.14
6.停電時の動作 …… P.15
7.過負荷時の動作 …… P.16〜17
8.故障かな?と思ったら …… P.18
9.長くお使いいただくために …… P.19
10.保証とアフターサービス …… P.20
11.仕様 …… P.21
12.壁面への取り付け …… P.22〜23

1.設置場所

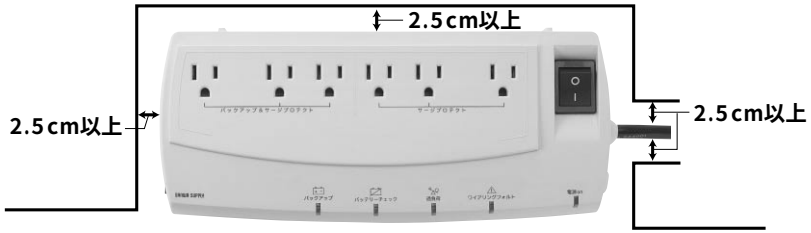
本UPSは、屋内用に設計されています。適切な環境でご使用ください。

⚠ 注意

- ●UPSは前後左右に2.5cm以上の空間を設けて設置してください。
- ●UPSの通風口はふさがないでください。
- ●UPSの上面には物を載せないでください。
- ●次のような環境での使用・保管は絶対にしないでください。
  故障・損傷・劣化などによって、火災の原因になることがあります。
  ①カタログ・取扱説明書に記載の周囲温度から外れた高温・低温・多湿となる場所
  ②直射日光が当たる場所
  ③ストーブ等の熱源から熱を直接受ける場所
  ④車載・船舶等、振動や衝撃の加わる場所
  ⑤火花が発生する機器の近く
  ⑥粉塵・腐食性ガス・塩分・可燃性ガスがある場所
  ⑦屋外

●使用環境　温度：0～40℃
　　湿度：0～95%(ただし、結露しないこと)

●設置スペース
本UPSは磁気漏洩があり、CRTディスプレイ等に影響を及ぼす場合がありますので、
この時は影響を及ぼさない距離に設置願います。

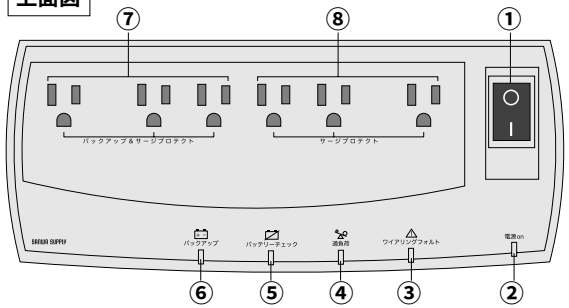


2.安全上の重要な注意事項

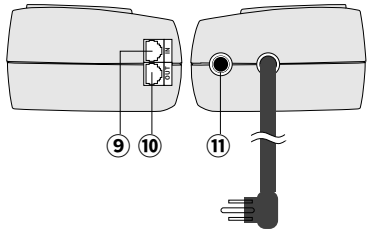
- ●UPSはバッテリ(公称電圧12V)を内蔵しています。装置が商用電源に接続されてない場合でも感電する危険があります。
- ●発火または感電のおそれがありますので、本書に記載されている指定範囲内の温度・湿度のある場所に設置してください。
- ●UPSはバッテリ(公称電圧12V)を内蔵しています。商用運転中のとき、装置が商用電源に接続されていない場合でもバックアップ出力コンセントは出力があります。
- ●UPSは、ホコリのない風通しのよい室内に設置してください。
- ●UPSは、アースのある2極3線式コンセントに接続してください。このコンセントは適切な分岐保護回路(ヒューズまたはサーキットブレーカ)に接続されている必要があります。
  その他のコンセントに接続しますと感電のおそれがあります。
- ●緊急時にUPSを完全停止させるためには最初に電源スイッチを押して、UPSの運転を停止させてください。それから、UPSの入力プラグを壁のコンセントから抜いてください。

3.各部の名称

上面図



側面図



No.	名　　称	機　　能
①	電源スイッチ	運転・停止するスイッチです。(「I」が電源ON/「○」が停止
②	電源インジケータ 「電源ON」	緑色ランプが点灯している場合は、商用運転中であることを示します
③	極性・アースチェックインジケータ 「ワイアリングフォルト」	オレンジ色ランプが点灯している場合は、アースをとっていないか、配線が逆極性になっていることを示します。
④	過負荷インジケータ 「過負荷」	オレンジ色ランプが点灯している場合は、負荷が過負荷になっていることを示します。
⑤	バッテリーチェックインジケータ 「バッテリーチェック」	オレンジ色ランプが点灯している場合は、UPSのバッテリ容量が低くなっているか、寿命となったことを示します。
⑥	バックアップインジケーター 「バックアップ」	オレンジ色ランプが点灯している場合は、バッテリから電力を供給していることを示します。(バックアップ出力コンセントより出力)
⑦	サージ減衰機能付バックアップコンセント 「バックアップ&サージプロテクト」	バックアップを必要とする機器を接続する出力コンセントです。このコンセントは接続した機器を停電とサージから守ります。合計250VA（150W）まで接続可能です。
⑧	サージ減衰機能付スルーコンセント 「サージプロテクト」	バックアップを必要としない機器を接続するコンセントです。このコンセントは接続した機器をサージから守ります。合計で7.5Aまで接続可能です。
⑨	RJ11/45回線サージ減衰用モジュラージャック 「IN」	電話線(RJ11)又は10Base-Tツイストケーブル(RJ45)のサージを吸収できます。 「OUT」側に保護する機器を接続してください。
⑩	RJ11/45回線サージ減衰用モジュラージャック 「OUT」	
⑪	入力サーキットブレーカー	このサーキットブレーカはスルー出力コンセントが過負荷状態になった場合、商用電源から装置を切り離すためにトリップします。トリップした場合は、黒いボタンがとびだし、出力が停止します。この場合は少なくとも1つの負荷をUPSから外してください。サーキットブレーカをリセットするにはサーキットブレーカのボタンを押し込んでください。

4.使い方

①商用電源に接続します。

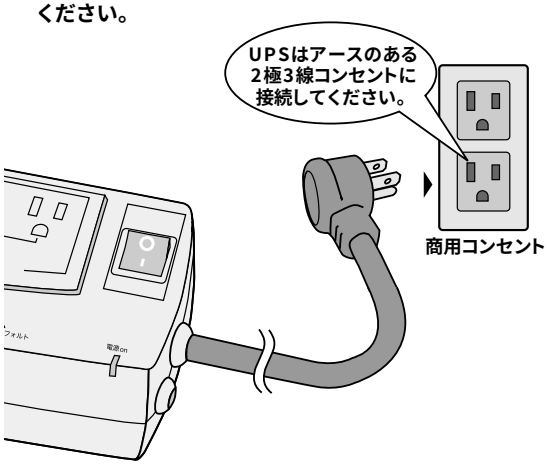
⚠ 注意

アース線を確実に接続してください。
アース線を接続していない場合、感電のおそれがあります。

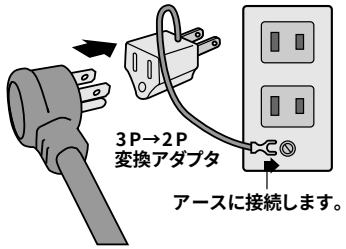
⚠ 注意

延長用の電源や蛸足配線となるアダプタは使用しないでください。

本UPSの入力プラグを商用電源コンセントと接続してください。



※入力電源ケーブルの差込プラグがコンセントに合わない場合は、付属の3P→2P変換アダプタを取り付けてから差し込んでください。



②UPSのバッテリを充電します。

UPSの電源スイッチはOFFのままにしておいてください。

⚠ 注意

無負荷状態で最低10時間以上は充電してください。
バッテリを充電しないで、UPSを使用することはできますが、その場合はバッテリのバックアップ時間が減少します。

③バックアップを必要とする負荷(PC本体・モニタなど)を接続します。

負荷(PC本体、パソコンなど)をサージ減衰機能付バックアップコンセント(9ページ⑦)に接続してください。

⚠ 注意

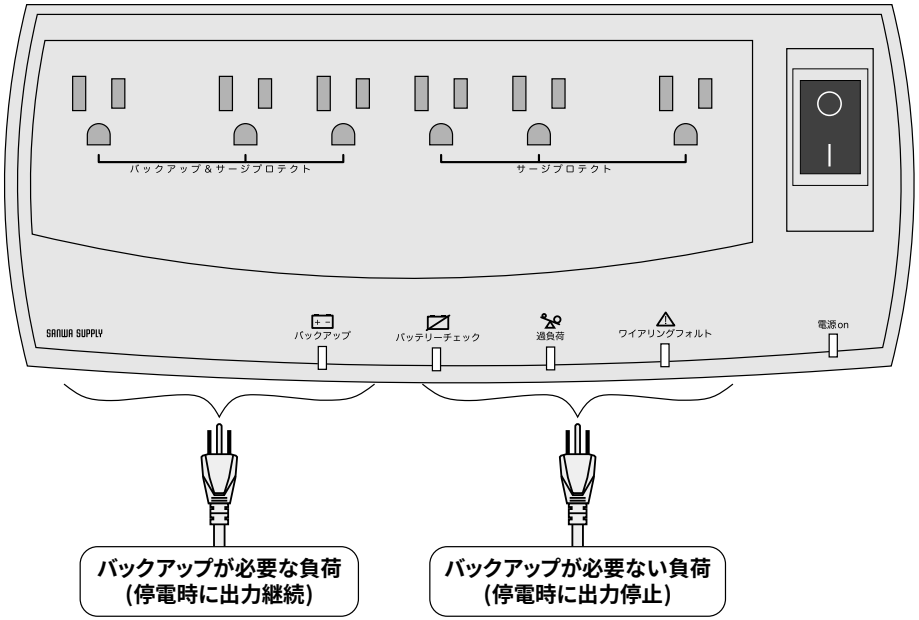
負荷の消費電力の合計が250VA 2.5A(150W)以下にしてください。
本装置はコンピュータの周辺機器用に設計しています。
トランスやインダクタなどの巻線類負荷には適合しません。
レーザープリンタを接続しないでください。

④バックアップを必要としない負荷（スキャナ、MOドライブ、インクジェットプリンタなど）を接続する。

負荷(パソコン周辺機器)をサージ機能付スルーコンセント(9ページ⑧)に接続してください。

⚠ 注意

負荷の消費電力の合計が750VA 7.5A以下にしてください。
本装置はコンピュータの周辺機器用に設計しています。
トランスやインダクタなどの巻線類負荷には適合しません。
レーザープリンタを接続しないでください。



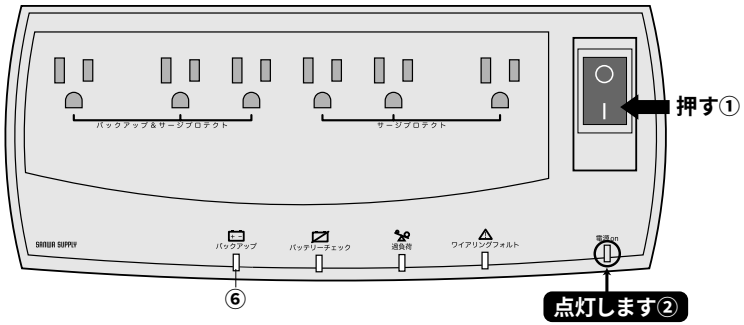
バックアップ用コンセントとスルーコンセントは、どちらもパソコンとパソコンの周辺機器用です。
パソコンまたは、パソコン用の周辺機器以外の装置には、使用しないでください。

⑤始動します。

⚠ 注意

UPSが故障し、異臭・異音がした場合はUPSをすぐに停止してください。
火災の原因になる場合があります。

電源スイッチ(下図①)の「I」側を押してください。
「ピー」という音が鳴り、電源インジケーター（下図②)の緑色のランプが点灯します。
2～3秒後に内部テストのため、バックアップインジケーター（下図⑥）が点灯します。
3～4秒点灯した後でこのインジケーター（下図⑥）は消灯します。



⑥負荷(コンピュータなど)の電源スイッチをONにします。

UPSに接続した負荷(コンピュータなど)のスイッチをONにしてください。

⑦セット完了です。

負荷(コンピュータなど)の動作が正常であればセット完了です。
次の注意のもと、UPSをお使いください。

⚠ 注意

通風口に棒・指などの異物を入れないでください。感電のおそれがあります。

入力プラグは絶対に出力コンセントに差し込まないでください。運転中に入力プラグを出力コンセントに差し込むと電流が環流し、アークが発生してやけど・視覚の障害などのおそれがあります。

UPSが運転している状態で入力電源ケーブルを抜かないでください。
感電・やけどのおそれがあります。

運転中はUPSを絶対に移動させないでください。感電・やけどのおそれがあります。

負荷を減らす場合、UPSを停止させてください。火災・やけどの原因になる場合があります。

⊘ 禁止

UPS周辺での喫煙・火気の使用を禁止します。爆発・破損により、けが・火災のおそれがあります。

UPSの上部に花瓶など水の入った容器を置かないでください。花瓶などが転倒した場合、こぼれた水での感電・UPS内部からの火災の原因になることがあります。

UPSの上部に乗ったり、踏み台にしたりしないでください。

次のような用途には絶対に使用しないでください。

a.人命に直接かかわる医療機器などへの使用。
b.人身の損傷に至る可能性のある航空機・電車・エレベータなどへの使用。
c.社会的・公共的に重要なコンピュータシステムなどへの使用。
d.これらに準ずる装置。

＜UPSを停止させる場合は＞

⑧負荷(コンピュータなど)を停止させます。
UPSに接続した負荷(コンピュータなど)を停止させてください。

⑨UPSを停止させます。

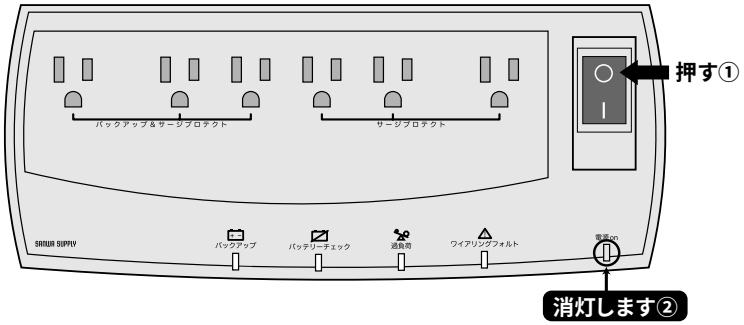
⚠ 注意

UPSが運転中(商用/バックアップインジケーター点灯)に、入力電源ケーブルを抜かないでください。停電と同じ状態になり、バッテリが放電します。

(1)電源スイッチ(下図①)の「○」側を押してください。

(2)UPSが停止すると、電源インジケータ（下図②）の緑色のランプが消灯します。

(3)UPSが停止します。UPS停止後も必要に応じバッテリーは充電されます。



5. 長期間使用しないときは

⚠ 注意

本UPSは寿命がきたら買い換えてください。
寿命となったUPSは火災の原因になることがあります。

⚠ 注意

バッテリは使用しなくても自然放電します。3ヶ月ごとに24時間のバッテリ充電を行ってください。
本UPSが使用できなくなることがあります。

⚠ 注意

本UPSが運転中(電源インジケーター点灯中)に、入力電源コードを抜かないでください。
停電と同じ状態になり、バッテリが放電します。

通常の始動/停止は、電源スイッチで行ってください。

バッテリの自己放電による電圧低下を防ぐために、本UPSを商用電源に接続しバッテリの充電を行う必要がありますが、長期間使用しない場合には次の操作を行ってください。

①電源スイッチを押して、本UPSの運転を停止させてください。

②UPSが停止すると電源インジケーターの緑色のランプが消灯します。

③UPSが停止します。

④入力電源ケーブルを入力コンセントから抜き、本UPSを保管してください。

⚠ 注意

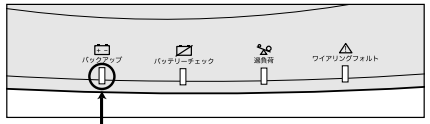
保管する際には必ず正常な方法（上記）で本UPSの運転を停止させてからにしてください

6.停電時の動作

停電が発生すると…

①商用運転からバックアップ運転（インバータ運転）に切り換わります。

バックアップインジケーターのオレンジ色ランプが「ピー」というブザー音とともに点灯します。
ランプの点灯とともにゆっくりしたブザーの断続音が鳴ります。（約10秒に1回）



バックアップインジケーター
点灯します⑥

②2分以内に負荷（パソコン）の終了処理をしてください。

コンピュータをご使用の場合は、データをセーブしてください。
その他の周辺機器をご使用の場合は、必要な処置を行ってシステムを終了させてください。

③UPSに接続している負荷（パソコン、周辺機器等）を終了させたら、UPSの電源スイッチを切って、運転を停止させてください。

☞そのまま放置しておくと・・・

バッテリーの容量が少なくなると、ブザー音の間隔が短くなります。（一秒に一回）やがてバッテリーを保護するためバックアップ運転を中止します。（すべてのインジケーターランプが消灯します。）運転中止までの時間は負荷の容量やバッテリーの残量に依存します。

☞バックアップ運転中に停電から回復すると・・・

バックアップインジケーターのランプが消え、ブザー音も止まり、再び電源インジケーターが点灯します。商用運転を再開します。

7.過負荷時の動作（停電時）

⚠ 注意

●負荷を減らす場合、UPSを停止させてください。
火災やけどの原因になる場合があります。

●運転中は、UPSを絶対に移動させないでください。
感電・やけどのおそれがあります。

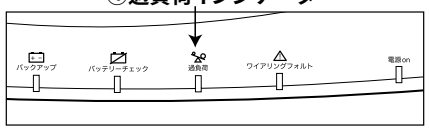
本UPSのサージ減裏機能付バックアップコンセントの過負荷動作は、下記のようになります。

1 過負荷になる。(停電時・バックアップ運転中)

130%未満の過負荷だと・・・

2 過負荷インジケーターのランプが点灯する。
ランプの点灯とともにアラームブザーの連続音が鳴る。

④過負荷インジケーター



130%以上の過負荷だと・・・

2 UPSの出力が停止する。
出力が停止し、全てのインジケーターが消灯する。

3 UPSの電源スイッチを切る。

4 負荷を減らしてください。
バックアップコンセントに接続している負荷の合計が250VA（150W）以下になるようにしてください。

5 停電から回復したら、電源スイッチを入れてご使用ください。

過負荷（130%未満）だと・・・

3 ただちに負荷（パソコン）の終了処理をしてください。
すぐに電源を切れる機器があれば、電源を切ってください。コンピュータをご使用の場合はデータをセーブしてください。その他の周辺機器をご使用の場合は、必要な処理を行ってシステムを終了させてください。

※機器の電源を切ることで、負荷が過負荷から正常に戻ると過負荷インジケーターのランプが消え、アラームブザーも連続音から断続音に変わりますが、バックアップ時間は短くなりますので、速やかに終了処理を行ってください。

瞬間的な過負荷だと・・・

3 自動的に元に戻る。
過負荷インジケーターのランプが消灯し、アラームブザーの音が止まる。バックアップインジケーターのLEDは点灯したままです。

4 停電時の終了処理を行ってください。
（15ページを参照にしてください。）

過負荷（130%未満）だと・・・（つづき）

※処理中にも消費電力は変動します。負荷が130%以上になると、UPSの出力は停止します。

4 UPSの電源スイッチを切って運転を停止させてください。

5 負荷を減らしてください。
バックアップコンセントに接続している負荷の合計が250VA（150W）以下になるようにしてください。

6 停電から回復したら、無負荷状態で最低10時間以上は充電してください。
充電後、電源スイッチを入れてご使用ください。

8.故障かな？と思ったら

⚠ 注意

UPSのカバーは開けないでください。感電のおそれがあります。

故障かな?と思ったら、まず次の確認を行ってください。
それでも正常に動作しない場合は、お買い上げの販売店にご相談のうえ、修理を依頼してください。

問　　題	考えられる原因	処　　置
UPSが起動しない。(ランプも点灯しない、ブザーも鳴らない)	電源スイッチがONになっていない。	電源スイッチをの「I」側を押して、UPSを起動してください。
	UPSのサーキットブレーカーがトリップしている。	1.UPSにつないでいる負荷を取り外しください。 2.サーキットブレーカーをリセットしてください。
	入力の電圧が低すぎる。	電源コンセントの電圧をチェックしてください。
	入力電源プラグが外れている。	入力電源プラグの接続状況を確認してください。
過負荷インジケーターが点灯、ブザーが鳴り続ける。	UPS過負荷。	負荷の大きい装置を外してください。
	出力がショートしている。	出力の負荷をチェックしてください。
バックアップ時間が定格より短い。	UPSのバッテリが完全充電されていない。	バッテリを10時間以上再充電してくだい。
	過負荷	いくつかの負荷を外してください。
	バッテリの寿命が末期状態になっている。	停電によるバックアップ運転の頻度が多かったり、高温で使用されたりしている場合には、バッテリの消耗が大きく寿命が期待寿命より短くなります。新しい商品をご購入ください。
バックアップしない。	過負荷	いくつかの負荷を外してください。
	UPSのバッテリーが充電されていない。	バッテリーを10時間以上充電してください。
	バッテリの寿命が末期状態になっている。	停電によるバックアップ運転の頻度が多かったり、高温で使用されたりしている場合には、バッテリの消耗が大きく寿命が期待寿命より短くなります。新しい商品をご購入ください。
バッテリチェックインジケーターが点灯している。	バッテリ容量低下。	無負荷状態で10時間以上充電してみてください。
	バッテリ故障	お買い求めの販売店にご連絡ください。
ワイヤリングフォルトインジケータが点灯している。	アース未接続	アース線を確実に接続してください。
	逆極性	入力プラグ(変換アダプタ)を逆向きに差しかえてください。
	商用コンセントのアース未処理	電気工事業者にご相談ください。

9.長くお使いいただくために

①定期的な点検

⚠ 注意

UPSのカバーは開けないでください。感電のおそれがあります。

⚠ 注意

UPSが故障し、異臭・異音がした場合はUPSをすぐに停止してください。
火災の原因になる場合があります。

通風口に棒・指などの異物を入れないでください。感電のおそれがあります。

入力プラグは絶対に出力コンセントに差し込まないでください。
運転中に入力プラグを出力コンセントに差し込むと電流が環流し、アークが発生してやけど・視覚の障害などのおそれがあります。

UPSが運転している状態で入力電源ケーブルを抜かないでください。
感電・やけどのおそれがあります。

運転中はUPSを絶対に移動させないでください。感電・やけどのおそれがあります。

負荷を減らす場合、UPSを停止させてください。火災・やけどの原因になる場合があります。

本UPSには特別な手入れは必要ありませんが、長期間安全にご使用いただくために、次の1～3を定期的に点検してください。

(1)UPSの表面が異常に熱くなっていませんか?

(2)入力電源ケーブルが異常に熱くなっていませんか?

(3)装置側面の通風口が塞がっていませんか?

万一異常が見つかった場合は使用を中止し、お買い上げの販売店にご相談ください。

②本製品の寿命について

⚠ 注意

本UPSは寿命がきたら買い換えてください。寿命を過ぎたUPSは火災の原因になることがあります。

🚫 禁止

当社が指定した保守員以外の人は、保守・修理をしないでください。感電・けが・火災のおそれがあります。

本UPSの装置寿命は約2～3年です。寿命がきたらお買い上げの販売店にご相談ください。
製品の廃棄には別途廃棄費用がかかります。

(注)本UPSに使用しているバッテリは、メンテナンスフリータイプですので日常の保守は不要です。
(注)使用開始時に本UPS裏面ラベルに記入していただいた「使用開始日」を目安として、寿命となるよりも早めに廃棄し、新しいUPSを購入するようにしてください。
(注)2～3年は周囲温度20℃における目安です。周囲温度が高い場合や停電の発生頻度が多い場合は寿命が短くなり、2年以下でも寿命となる場合があります。

10.保証とアフターサービス

①保証書

この製品には保証書が、添付されています。保証書の内容と所定事項が記入されていることをご確認の上、大切に保管してください。保証期間は12ヶ月です。

②アフターサービス

アフターサービスについてのお問い合わせは、お買い上げの販売店にどうぞ!

(1)保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づき、修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。
販売店に連絡されるときは、右記のことをお知らせください。
保証書の提示が無い場合は保証期間内でも、修理をお受けできません。

①品　　名：小型無停電電源装置
②品　　番：UPS-250TS
③お買い上げ日：保証書に記載
④故障の状況：できるだけ詳しく

(2)保証期間終了後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により弊社指定の方法で有料修理させていただきます。

⚠ 注意

本UPSに使用しているバッテリーは消耗品です。保証期間であっても、バッテリーの消耗に対する修理・交換は行えません。

11.仕様

運転方式		常時商用給電方式
交流入力	定格電圧	AC100V±15%
	周波数	50/60Hz±5%
	最大電流	10A
	相数	単相2線(2P+アース付)
交流出力	出力容量	バックアップコンセント:合計250VA/150W(パソコン負荷) スルーコンセント:合計750VA(7.5A)
	電圧	AC100V±15%(バックアップ運転時)
	周波数	50/60Hz±5%(バックアップ運転時)
	相数	単相2線(アース付)
	出力波形	短形波(バックアップ運転時)/正弧波(商用運転時)
出力コンセント		バックアップコンセント:(2P+アース付)×3個(NEMA 5-15R)※1 スルーコンセント:(2P+アース付)×3個(NEMA 5-15R)※1
バッテリ	種類	小型シール鉛蓄電池(普通寿命タイプ:期待寿命2−3年※2)
	バックアップ時間	2分(20℃、定格負荷、初期値※3)
	充電時間	10時間(90%まで)
バックアップ		平均4ms(最大12ms)
警告アラーム		停電(バックアップ運転)/過負荷(バックアップ運転時)/ローバッテリー
LED表示		パワーON/バックアップ/ローバッテリー/ 過負荷(バックアップ運転時)/ワイアリングフォルト
回線サージ保護コネクタ		RJ11/45(電話回線(2芯)/10Base-T・100Base-Tx)
エネルギ耐量		360ジュール
使用温度		0-40℃
使用湿度		0-95%RH(結露なきこと)
外形寸法(W×D×C		W272×D117×H65mm(突起は除く)
重量		2Kg
入力電源ケーブル		2P+アース付(二極平行アース付)1.8m(5-15P)※4

※1 出力用コンセントについて
出力用コンセントはパソコン又はパソコン用周辺機器専用です。
その他の機器には接続しないでください。
レーザープリンタは待機電流、起動電流でカタログ記載の消費電流の数倍の負荷がかかりますので、本製品には使用しないでください。トランス、インダクタ、モーターなどの巻線負荷や照明負荷には使用しないでください。

※2 期待寿命について
本製品の期待寿命は2年から3年です。本製品の周辺温度やバックアップ運転の頻度によって寿命は異なります。周辺温度が高い場合やバックアップ運転の頻度が多い場合は、2年以下でバッテリの寿命となることがあります。
寿命の場合は新品の購入をお願いいたします。

※3 バックアップ時間について
初期状態、周辺温度20℃、100%充電後、100%負荷の状態です。周囲温度が高い場合や、本製品の使用によりバッテリが消耗している場合、充電が十分でない場合はバックアップ時間は短くなります。

※4 入力電源ケーブルについて
本製品を商用コンセントに接続する場合には、必ずアースをとってください。
アースをとられない場合はサージ保護が機能しません。

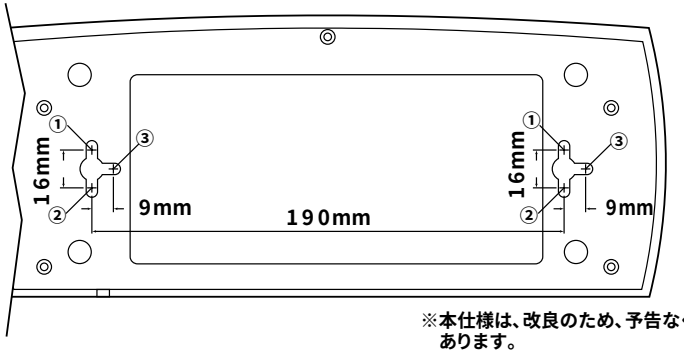
※本体の破棄について
本製品を破棄する際にはお買い求めの販売店にご相談ください。

12.壁面への取り付け

本UPSは付属の止め金具（木ネジ）とテンプレートを使って壁面に取り付けることができます。

テンプレート

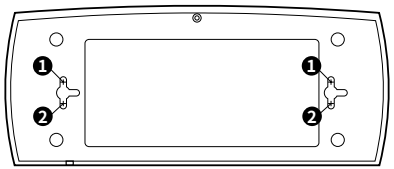
底面図



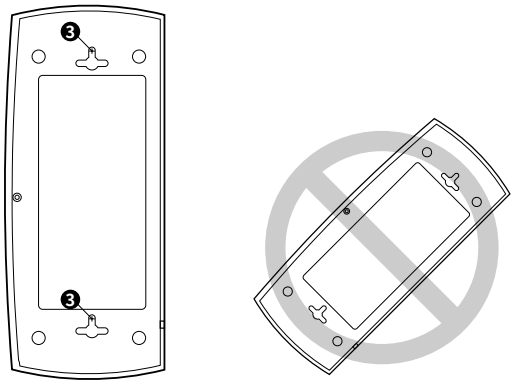
※本仕様は、改良のため、予告なく変更することがあります。

①固定する位置に付属のテンプレートを画鋲などで止めてください。

(1)UPSを水平に固定するときは、テンプレートの①又は②が上になるようにしてください。

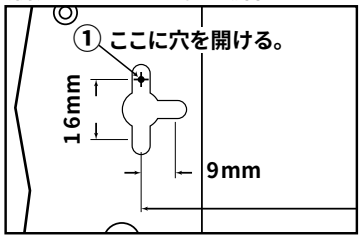


(2)UPSを垂直に固定するときは、テンプレートの③が上になるように止めてください。
(1)(2)の場合もUPSが斜めにならないよう注意してください。



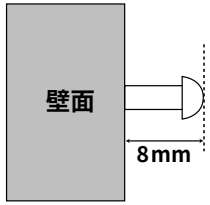
②テンプレートの①②③が指す中心に、テンプレートの上から壁面に穴を開けてください。①

（例）テンプレート①の場合



※各番号の指す位置は二個ずつあるので、
同じ番号に穴を開けてください。

③テンプレートを壁から外し、止め金具（木ネジ）をドライバーを使って穴にねじ込んでください。
壁面から止め金具（木ネジ）の頭までの長さが8mmになるまでねじ込んでください。



④止め金具が固定できたら、UPSの底面の大きな穴を止め金具に合わせてセットしてください。

・水平方向に取り付ける場合・・・下にUPSをスライドさせて固定します。
・垂直方向に取り付ける場合・・・下にUPSをスライドさせて固定します。

⚠ 注意

・UPSを壁面に固定される場合は、壁面の裏側に柱があるような止め金具がしっかりと固定できる場所を選んでください。
・電源プラグの抜き差しの時には、UPSおよびケーブル以外の重量がかからないように注意して取り扱ってください。

保 証 規 定

1.保証期間内(お買い上げ日より12ヶ月間)に正常な状態でご使用の場合に限り品質を保証しております。
万一保証期間内で故障がありました場合は、当社所定の方法で無償修理いたしますので、保証書を商品に添えてお買い上げの販売店までお持ちください。

2.次のような場合は保証期間内でも有償修理になります。
(1)保証書をご掲示いただけない場合。
(2)所定の項目をご記入いただけない場合、あるいは字句を書き換えられた場合。
(3)故障の原因が取り扱い上の不注意による場合。
(4)お客様による輸送・移動中の衝撃による場合。
(5)天変地異、ならびに公害や異常電圧その他の外部要因による故障及び損傷。

3.お客様ご自身による改造または修理があったと判断された場合は、保証期間内での修理もお受けいたしかねます。

4.消耗品（バッテリー）の消耗・劣化に対する修理・修理交換は保証期間中で宛も行えません。

5.本製品の故障、またはその使用によって生じた直接、間接の損傷については当社はその責を負わないものとします。

6.修理ご依頼品を郵送、またはご持参される場合の諸費用は、お客様のご負担となります。

7.保証書は再発行いたしませんので、大切に保管してください。

8.保証書は日本国内においてのみ有効です。